

博物館施策の現状と今後の展望について

榎本剛・文化庁企画調整課長

Ⅰ. 現状 多様な博物館が各地で活動しており、一層の発展に取り組むことが課題

- 全国の博物館は様々な活動を通じて教育・学術・文化の発展に寄与。
 - ・ 館数(H30)は、博物館:1,287館で過去最多、博物館類似施設:4,457館で前回調査より増。学芸員数も過去最多。
 - ・ 一館あたり入館者(H29)は、博物館:11万6,100人、博物館類似施設:3万8,100人で、いずれも前回調査より増。

年度	館数(館)		学芸員(人)		年度	一館あたり入館者(人)	
	博物館	博物館類似施設	博物館	博物館類似施設		博物館	博物館類似施設
H14	1,120	4,243	3,393	2,243	H13	104,372	37,971
17	1,196	4,418	3,827	2,397	16	101,721	36,401
20	1,248	4,527	3,990	2,796	19	102,799	36,213
23	1,262	4,485	4,396	2,897	22	101,711	36,761
27	1,256	4,434	4,738	3,083	26	107,437	36,051
30	1,287	4,457	5,035	3,371	29	116,096	38,077

「平成30年度社会教育調査中間報告」から

- 一方、博物館の更なる機能の向上のため、一層取り組むべき課題あり。

テーマ	取組の進展	状況
財政面	資料購入予算がある館	42%
資料整理・調査研究	資料収集・保存を計画的に実施する館	43%
職員の確保・研修	一館当たり職員数	6.3人
	うち学芸系職員数	2.1人
	学芸系職員を他の研修に派遣・参加させている館	56%
情報化への対応 施設設備	ウェブサイトから目録情報を公開している館	9%
	施設のリニューアルを必要とする館	68%
	障害者対応エレベータを持つ館	42%
都道府県・指定都市立 の博物館(154館)	夜間開館	
	17:00以降開館する館	38%
	18:00以降開館する館	18%
	多言語化	
	パンフレットを整備する館	51%
	解説版を整備する館	6%

「平成25年度日本の博物館総合調査報告書」から

(夜間開館は「週末のみ」の場合を含む)

「平成30年度文化庁調査」から

II. 期待される方向性 社会教育・文化に係る取組を充実しつつ、多くの人に親しまれる魅力ある「館」づくり

1. 子供たちや地域住民への学習機会の提供、収蔵品の収集・保存・調査等の着実な取組など、社会教育施設・文化施設としての役割の一層の充実。
2. ストーリー性ある充実した展示により、国内外を問わず、一人でも多くの人々に、我が国・地域の多様な文化・歴史・風土への理解の促進。
3. 地域活性化・まちづくりの拠点としての博物館が、各地域の文化と経済の好循環創出にも貢献。

III. 今後の取組 博物館の活動支援の充実

- (1) **博物館政策の検討の場の設置**
 - 博物館による社会教育の振興が文化庁の所管になったことを受けて、文化審議会で博物館の総合的な検討を開始。
 - ・ ICOM京都大会での国際的な議論を反映しつつ、前回(平成20年)の博物館法改正後の課題を洗い出し
- (2) **国立館での先進事例・好事例の創出とその横展開**
 - 東京国立博物館「トーハク改革プラン」(H31.2)、国立科学博物館「科博イノベーションプラン」(R1.7.)に代表される改革の推進。
 - ・ わかりやすい展示や多言語化など、快適な観賞環境の整備と入館者サービスの充実
 - ・ 収蔵品の収蔵環境向上のための必要な調査・改修の実施
 - ナショナルセンターとしての全国の博物館への支援。
 - ・ 「文化財活用センター」「科博イノベーションセンター」による収蔵品の活用促進
 - ・ 「文化財防災ネットワーク」による防災に関する各館支援
 - ・ 収蔵品データベースの整備と公開

(3) 各地の博物館における活動支援の充実

- 博物館が地域と共働する事業への支援充実。
 - ・ 子供たち・高齢者等へのアウトリーチ、インバウンド受入支援のスタートアップなど
 - ・ 地方分権一括法により、社会教育の適切な実施の確保に関する一定の担保措置を講じた上で、公立博物館の首長所管が可能(今年6月～)となっており、地域における博物館政策を一層、総合行政に位置づけ可能に
- 研修の充実、修理・修復への支援。
 - ・ 専門職員の研修の充実(特に、海外派遣)
 - ・ 重要文化財の美術工芸品等の収蔵品に関する修理・修復への支援
- 魅力的な展示・企画に関する支援
 - ・ 国立館等が持つ地方ゆかりの文化資産の地域への貸与等支援(新規)
 - ・ 「日本博」の一層の活用
- 「施設設備の改修・整備」に関する支援。
 - ・ 防火設備等の緊急調査を踏まえ、老朽化した設備の改修を支援
 - ・ 公立社会教育施設災害復旧
 - ・ 公立博物館の施設の長寿命化のための「公共施設等適正管理推進事業債」の活用

(4) 博物館の活動基盤の整備

- 「博物館を中核とした文化クラスター形成事業」の推進。さらに、文化振興、地域の活性化、経済の活性化の観点から、意欲ある博物館に対し、予算・税制・関係省庁との連携施策を通じた支援(新たな制度の創設の検討)。
- 博物館で活用可能な他省庁の事業や税制優遇などの情報を一覧化・提供。
- 「ジャパンサーチ」等による博物館に関するデジタルアーカイブの内容充実。
- 博物館のうち美術館支援施策の一層の活用。
 - ・ 登録美術品制度の一層の活用(現在、83件9,237点の美術品が登録)
 - ・ 美術品補償制度(海外等から借り受けた美術品に損害が生じた場合に、その損害を政府が補填する制度。これまで37件の展覧会が対象)の一層の活用

令和2年4月24日開館！国立アイヌ民族博物館の目指す姿

1 国立アイヌ民族博物館の概要

○ 北海道白老町に整備が進められている「ウポポイ(民族共生象徴空間)」の中核施設として、令和2年4月24日に開館予定

※ ウポポイには、「国立アイヌ民族博物館」の他、「国立民族共生公園」があり、古式舞踊の披露等、様々な体験プログラムを実施予定。

○ 先住民族アイヌを主題とした日本初の国立博物館

○ 政府目標である「年間来館者数100万人」を目指す。



ウポポイは、単にアイヌ文化の振興だけでなく、我が国の貴重な文化でありながら近代化政策の結果として存立の危機にあるアイヌ文化を復興・発展させる拠点として、また、国際的にも追求されている将来の豊かな共生社会を構築し、将来の世代により良い社会を残していくための象徴としての役割を担う。

■ 理念

先住民族であるアイヌの尊厳を尊重し、国内外にアイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進するとともに、新たなアイヌ文化の創造及び発展に寄与する。

■ 目的

- ① アイヌの歴史・文化・精神世界等に関する正しい知識を提供し、理解を促進する博物館
- ② アイヌの歴史・文化に関する十分な知識を持つ次世代の博物館専門家を育成する博物館
- ③ アイヌの歴史・文化に関する調査と研究を行う博物館
- ④ アイヌの歴史・文化等を展示する博物館等をつなぐ情報ネットワーク拠点となる博物館

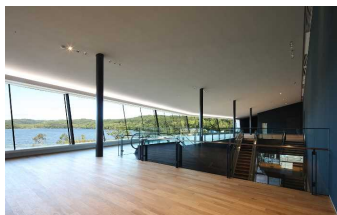
■ 展示

基本展示: アイヌの人々の視点で、「私たちの〇〇」という6つの切り口でアイヌの歴史、文化を紹介

特別展示・テーマ展示: 最新の調査研究成果に基づいた多様な切り口の展示を一定期間内に紹介



延床面積	約8,600㎡
基本展示室	約1,250㎡
特別・テーマ展示室	約1,000㎡
シアター	約150㎡



2 博物館の新たな役割を担うために

社会教育施設としての役割

● 学校教育との連携・生涯学習対応に重点

- ・スクールプログラム、ワークショップ、学校への教材貸出、出前講座、遠隔授業等の積極展開

● 研究者による対話型解説の実施

- ・「探究展示”テンパテンパ”(子供向け展示)」において、研究員による対話型解説を実施

「探究展示”テンパテンパ”」では、子供達が展示物を手に取って見たり、遊びながらアイヌ文化を学べるほか、研究員による対話型の解説を行い、学びを深める予定。



- ・その他ギャラリートーク、講演会などを通じた研究員と観客との相互交流による社会教育の実施

● 博物館人材の育成

- ・アイヌの歴史・文化に関する十分な知識を持つ次世代の博物館専門家を育成。
- ・アイヌ文化の担い手育成への貢献

SDGs、様々な課題に対応する役割

● 共生社会実現に向けた取組

- ・自然と調和し共存するアイヌの人々の精神世界をはじめ、アイヌの歴史・文化等を国内外に発信
- ・「私たちの～」という切り口で、アイヌの人々の視点で語る基本展示

● 文化の継承と創造

- ・国内外のアイヌ関連施設のネットワーク拠点となり、資料情報を共有するとともに、共同研究やアイヌ資料の保存技術、修復技術等向上を目指す。
- ・新しい文化の創造・発信の原動力となる。

● アイヌ語の復興

- ・館内の第一言語をアイヌ語に設定
- ・解説文を始め館内のあらゆるサインにアイヌ語を使用
- ・音声ガイドによりアイヌ語の解説を聞くことも可能

● さまざまな人々と共に成長を続ける博物館

- ・来館者、アイヌ文化の担い手、博物館員など、博物館に集うさまざまな人々の情報交換と討論を重ねる場となる。

観光資源としての役割

● ここにしかない体験の提供

- ・アイヌをテーマとした唯一の国立博物館
- ・様々な体験プログラムが用意されたフィールド(公園)との相乗効果
- ・人気アニメ等とのコラボ展示
- ・自然豊かなロケーションとポロト湖を眺望できる2階パノラミックロビーからの風景
- ・アイヌ文様を活用した建築



● 地域性を考慮した多言語対応

- ・アイヌ語に加え、ロシア語、タイ語を含め最大8言語で対応
- アイヌ語、日本語、英語、中国語<繁体字・簡体字>、韓国語、ロシア語、タイ語

● 観光のハブ機能

- ・近隣観光地(洞爺湖、登別等)との連携
- ・全道のアイヌ関連施設の紹介